

平成28年2月定例市議会

# 施政方針

和歌山市



ただいま上程されました諸議案の審議をお願いするにあたり、私の市政に対する所信の一端と、平成28年度当初予算及び国補正に係る平成27年度最終補正予算の大綱を申し述べ、市民の皆様、議員の皆様のご理解とご協力を賜りたいと思います。

### (国の情勢)

昨年11月、政府は、一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策を取りまとめ、「希望を生み出す強い経済」、「夢をつむぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」の新・三本の矢を掲げました。戦後最大の名目GDP600兆円を2020年頃までに達成するとともに、希望出生率1.8の実現と、介護離職ゼロなどを目指し、国を挙げた取組がなされようとしています。

こうした取組の一環として、国は、引き続き1兆円規模の「まち・ひと・しごと創生事業費」を確保するとともに、平成27年度補正予算及び平成28年度当初予算において、それぞれ「地方創生加速化交付金」及び「地方創生推進交付金」を計上し、各地方自治体における地方創生の加速化と更なる深化のための取組を支援しようとしています。

## （地方創生の本格的な推進）

本年は、急激な人口減少に歯止めをかけ、将来に向かって活力ある和歌山市を維持するために策定した「和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関する事業を本格的に始動させる重要な年となります。国からの支援を有効に活用しつつ、本市の地方創生の取組を全力で推進してまいります。

本市は、歴史・文化が豊かであるとともに、都市の生活と農村の生活、広範囲で様々な企業から構成される産業など、多くの面で多様性を持っています。そのことにより、人々は自分に合った仕事や生活様式を選択でき、個性豊かな生活を送ることができます。こうした多様性を伸ばすことによって多くの人が住みたくなるまちを目指します。

各地域には自治会をはじめ、まちづくりに取り組んでいる方々がたくさんいらっしゃいます。そうした方々のご意見をお聞きしながら、平成28年度に策定する和歌山市長期総合計画の中に、各地域が持つ個性や多様性を活用した取組を盛り込むことで、個性的で魅力のある地域づくりにつなげていきたいと考えています。

また、誰もが住みたくなるまちにするためには、子育てや老後へ

の安心感、災害からの安全性などが根本になくってはなりません。子育て支援や健康づくり、災害への備えなど、市民の安心・安全への取組を進めていきます。

### （新年度予算）

新年度の予算は、私が市長になって2回目の予算編成であり、総合戦略の達成に向け、本格的に動き出す初めての予算です。

平成28年度当初予算は、総合戦略の4つの基本目標の実現に主眼を置いた上で、その中でも市民ニーズが高い子育て支援とまちの魅力創造といった本市の喫緊の課題に対応した事業を重点施策と位置付けて予算編成を行いました。

また、地方創生の実現に向けて早急に取り組む必要がある事業については、地方創生加速化交付金や地域少子化対策重点推進交付金など国の補正予算を活用し、新年度予算から前倒しで取り組むこととしました。

したがって、平成27年度最終補正予算に計上した国補正分と平成28年度当初予算に計上した事業は切れ目なく一体的に執行していく必要があることから、新年度予算は、この補正予算を合

わせ「13か月予算」と位置付けています。

以下、この予算に盛り込みました主要事業について、総合戦略の4つの基本目標に沿ってご説明いたします。

#### ◆安定した雇用を創出し、産業が元気なまち

本市への人の定着や新たな転入を促進するためには、まずそこに生活の基盤となる仕事があることが必要です。経済の活性化に取り組むことで安定した雇用を創出し、産業が元気なまちを目指します。

#### （企業誘致・事業拡張の促進）

平成28年度中には、京奈和自動車道と阪和自動車道が接続し、西名阪自動車道につながるとともに、淡輪ランプから平井ランプ間の第二阪和国道が開通するなど、本市の交通アクセスは飛躍的に改善されます。更なる企業活動の活性化を目指し、京奈和自動車道の第二阪和国道への延伸を引き続き国へ働きかけてまいります。

本市が実施した企業への移転等の意向調査によると、立地先選定で重視する条件として、「用地の価格」、「交通利便性」が上位に挙げられており、また、市内企業の訪問調査でも、土地があれば、増

設等を検討する企業があることから、インターチェンジ周辺など新たな企業用地を創出するためのゾーニングを行い、企業誘致の準備を進めます。

本市は、創業率が全国平均よりも低く、産業の新陳代謝が進みにくい傾向にあり、地域経済の縮小、ひいてはまちの魅力の低下につながるおそれがあることから、企業立地促進奨励金制度などを活用した更なる企業誘致に取り組むとともに、創業者の育成や第二創業の活性化を進めます。

日本政策金融公庫のシニア・女性向け融資メニューを利用した起業家に対し、引き続き利子補給を行うとともに、地域の特色や地域資源を活用した新商品開発や販路開拓等の新たな事業展開を促進するため、クラウドファンディングを利用した資金調達により新事業を行う市内事業者に対し、費用の一部を補助します。

商業機能が集積したまちなかでの起業を促進するため、リノベーションスクールを引き続き開催するとともに、住民参加型のリノベーションを活用したまちづくりプランの策定や、空き店舗・空き家を活用した手づくり品の販売などを行う短期の店舗体験イベント「マチドリ」を開催します。また、まちなかで新たに事業を営むた

めの資金を借り受けた方が、和歌山県信用保証協会に支払う保証料の一部を補給します。

### **（女性の雇用対策の推進）**

本市は、女性の就業率が低い状況にあるため、仕事と子育ての両立を支援することで女性の社会進出を後押しするとともに、働く人材の確保を図ります。

子育て中の女性が働きやすい地元企業の合同企業面談会を託児所付きで実施するとともに、人材不足が顕著なコールセンター業務に係るセミナーの開催、地域子育て支援拠点5か所での求人情報の提供や「仕事と子育ての両立」をテーマとしたワークショップの開催などを行います。男性の育児参加を促進するため、「育メン」への支援に加え、「子育て」や「育メン」に理解を示す「育ボス」の増加にも取り組みます。

### **（地域産業の創出・競争力強化）**

地域産業の創出・競争力強化のため、地域ブランドの確立を通じた需要拡大や生産性の向上に取り組みます。



本市には、きらりと光る技術や商品を持ったニッチトップ企業やオンリーワン企業が多く存在します。本市の地域資源の一つである「ニット製品」について、中小企業庁の制度を活用し、県内で初の「ふるさと名物応援宣言」を行ったところであり、全国に情報発信するなどブランドの定着に取り組めます。また、入札制度の見直しを検討するなど、公共調達における地産地消を推進します。

農業分野においては、遊休農地の活用を促進するため、農地パトロールを実施するとともに、農地中間管理機構や農業生産法人との連携を強化します。都市近郊型農業の野菜づくりを推進するため、打ち抜き井戸の設置費用を補助し、非かん水期の農業用水を確保するとともに、引き続き農道・水路など農業を営む上で必要な施設の基盤整備を進めます。また、高糖度トマトや種ショウガの生産に取り組む農家を支援するとともに、薬用作物の試験栽培や漢方薬メーカーのニーズ調査を実施し、薬草産地化を推進します。

### **(観光の振興)**

本市には、人を惹きつける魅力にあふれた観光資源が豊富に存在し、和歌山城はもちろんのこと、友ヶ島などにも近年多くの観光客

が訪れています。こうした魅力を外国人を中心に増加する観光客が余すことなく体験でき、また訪れたいと思っていただけるよう、総合的な観光振興策を進めます。

観光客の誘客・消費拡大のため、旅館・ホテルの拡張・新設を支援するとともに、地域の多様な関係者による着地型観光商品の開発や魅力的な観光地域づくりを推進するための観光DMOの設立について、観光関連事業者などとの協議を進めます。

本県の玄関口となるJR和歌山駅前の「わかちか広場」においては、地場製品の販売促進へつなげるためのアンテナショップや展示コーナーの設置とともに、広域観光案内・発信機能を持つ観光ビジターセンターを設置するための準備を進めます。

昨年12月に和歌山港から和歌山マリーナシティに至るエリアが県内初の「みなとオアシス」に認定されました。本市の海の玄関口を観光に生かすため、水軒公園、中央卸売市場、観光拠点となる道の駅など港周辺の一体的な整備計画を策定するとともに、クルーズ船入港のための港湾施設整備の関係機関への働きかけや誘致活動を強化します。

本市の風光明媚な海岸線の魅力を最大限に生かした観光地づく

りとして、雑賀崎灯台周辺や友ヶ島の整備を進めるとともに、引き続き片男波干潟における潮干狩り復活に取り組みます。また、海辺のサイクリングロード整備の一環として、平成28年度中にシーサイドロードの供用を開始するとともに、サイクリングロードと合わせた和歌の浦の観光遊歩道路の整備計画を策定します。

少年自然の家については、「(仮称) 青少年国際交流センター」として、現在の小中学生だけでなく外国人を含め多くの人々が利用でき、ロケーションを生かした自然・歴史・文化と人をつなぐ豊かな体験ができる施設にリニューアルします。

#### ◆住みたい、住み続けたい魅力あふれるまち

人口減少に歯止めをかけるためには、市外への人口流出を抑制するとともに、本市への新しい人の流れをつくることが大切です。移住・定住を促進するとともに、魅力を高めることで、住みたい、住み続けたい魅力あふれるまちの実現を目指します。

#### (若者の流出抑制)

本市では、進学・就職の年代である15歳から29歳で大阪府や

東京圏への転出超過が顕著です。進学時における転出を抑制するため、伏虎中学校跡地への県立医科大学薬学部の誘致準備を進めるとともに、看護大学など専門性の高い大学の誘致に取り組み、高等教育機関の充実を図ります。

また、市内就職を促進するため、大都市圏でのU I J ターン合同企業面談会やセミナー、企業見学バスツアーを開催し、本市に立地する企業の魅力を伝えるとともに、市内企業への就職を条件とした奨学金返還助成制度を創設します。

### **(まちの魅力の創出)**

住みたい、住み続けたいと思われるまちであるためには、利便性や賑わいを高めることで魅力を創出するとともに、まちに対する愛着を育むことが大切です。

中心市街地において、民間活力による再開発を促進することで、医療、福祉、商業などの機能の充実を図り、利便性に優れたまちづくりを進めるとともに、まちなか居住を促進するための居住スペースを確保します。また、市民図書館を含めた市駅ビルの建替えの設計に着手するとともに、市駅前の再開発に合わせ、駅前広場や周辺

道路の再整備に係る基本設計を実施します。伏虎中学校の跡地では、市民会館を移設し、コンベンション機能などを有したまちなかの新しい顔となる「（仮称）市民文化交流センター」の基本計画・基本設計に着手するとともに、ネームプレート設置などの特典付きの寄附を募るための基金を設置します。

民間と連携したイベント等の開催により、まちなかの賑わいの創出とまちへの愛着の形成につなげます。本町通りを歩行者天国にし、地場製品の販売など、消費拡大を図るイベントをハロウィンの時期に合わせて実施するほか、京橋駐車場周辺では、和歌山製品の飲食・販売ブースを設置する「まちなか河岸」を継続して行うことで、消費と賑わいの相乗効果を高めていきます。

徳川御三家の城であり、歴史ある本市のシンボルである和歌山城においては、扇の芝や岡公園の整備を引き続き進めるとともに、二の丸御殿の復元検討を含めた史跡和歌山城整備計画を見直すことで、歴史的・文化的価値の向上を図ります。また、和歌山城を望める現在のビュースポットからの眺望を適切に保つため、計画的に樹木の伐採などを行います。

まちの景観形成に向け、住民団体と連携して景観計画を見直す

ともに、違反広告物の実態調査や路上喫煙、ポイ捨て防止の強化に取り組めます。また、夜間景観形成計画に基づき、市堀川、けやき大通りなどのイルミネーションやライトアップを行います。

郊外部をはじめとした市内各地域では、住民のまちづくり活動を支援し、個性や多様性を生かした魅力ある地域づくりに取り組むとともに、住民の地域への愛着を高めます。平井地区では、文化会館・児童館の建替えにあたり、平井遺跡や雑賀衆に関する歴史資料館としての機能を兼ね備えた複合館の基本設計を実施するとともに、和歌の浦では、歴史・文化を生かした地域活性化に関する計画を策定します。また、砂山・今福地区では、歩行者が安全に通行できる道路空間を創出するため、「（仮称）砂山コミュニティ緑道」の整備などを進めます。

### （シティプロモーションの推進）

民間の2015年の地域ブランド調査によると、本市の魅力度は202位であり、まだまだ魅力が認知されているとは言えない状況です。本市が持つ自然、歴史、文化といった地域資源や住みやすさを市内外に発信するなど、シティプロモーションを積極的に推進し

ていきます。

本年は、吉宗将軍就任300年にあたることから、東京都港区などと連携した事業を実施するとともに、紀州徳川家ゆかりの数々の文化遺産の日本遺産認定を目指すことで、本市の歴史・文化を国内外にPRしてまいります。

将軍就任日の9月28日前後を「吉宗ウィーク」と位置付け、吉宗に関連した様々な事業を積極的に展開します。吉宗が造営を指示した赤坂氷川神社の例大祭にてイベントを行うほか、吉宗ゆかりの地を巡るウォーキングコースの設定や海外向けPR動画の製作・発信を行います。また、300周年を記念し、花見の始まりと言われる吉宗桜を植樹することで、市民や来訪者に親しまれる空間づくりを目指すとともに、ベイカースフィールドやリッチモンドなどの姉妹都市に桜を寄贈し、魅力を更にPRしてまいります。

来年の平成29年は、偉人・先人の一人である南方熊楠の生誕150周年にあたることから、庁内組織を立ち上げ、記念事業の準備とPRを推進します。

県外への広報活動として、ターゲットを絞ったSNS広告を活用するとともに、外国人リポーターを起用し、外国人ならではの和歌

山市の良さを発掘する番組を放送します。また、テレビやラジオ番組での魅力発信などにより、首都圏におけるシティプロモーションを強化します。

#### ◆結婚・出産・子育ての希望がかなうまち

人口減少に歯止めをかけ、将来に向かって活力ある和歌山市を維持するためには、未来を担う子どもたちを育むことが最も重要です。子育て環境日本一を目指し、切れ目のない子育て支援と教育の充実に取り組みます。

#### (結婚・妊娠・出産・子育てへの支援)

本市の平成26年における合計特殊出生率は、1.44と全国平均を若干上回るものの、まだまだ高い水準ではありません。昨年本市が行ったアンケート調査においては、若い世代の多くが結婚を希望しており、さらには、子育てにお金がかかりすぎるといったことなどが解決されれば、理想的には2.28人の子どもを持ちたいという結果もあることから、このとりプロジェクトとして、結婚・妊娠・出産への支援、子育て環境の整備、経済的支援の3つを柱と



した総合的な子育て支援を進めます。

結婚の希望をかなえるため、出会いの場の創出や低所得者への結婚費用の支援を行うとともに、結婚を祝福するため、和歌山城の天守閣等を利用してウェディングフォトの撮影ができるようにします。

妊娠・出産への支援として、妊娠期から総合的に相談支援を行う子育て世代包括支援センターを設置するとともに、特定不妊治療を行う夫婦に対する助成制度の拡充、第3子以降の新生児を対象にしたオリジナルプレゼントボックスの贈呈や医療機関等の空きベッドを活用した産後ケアの提供を行います。

子育て環境の整備として、認定こども園、若竹学級の整備を進め、保育施設については平成31年度までに200人の定員増、若竹学級については平成30年度までに22学級の増に取り組むことで、待機児童ゼロの実現を目指します。また、保育所等のICT化を推進し、保育システムの導入による保育士の負担を軽減するとともに、保育所等における事故防止のためのカメラの設置の費用を支援します。

子育てへの経済的支援として、こども医療費について、これまで

要望の強かったこども医療費の無償化を就学前から中学校卒業まで拡大するとともに、幼児教育及び保育に係る保育料について、第3子以降の完全無償化を実施します。

様々なメリットがある3世代同居・近居を促進するため、3世代同居・近居に係る新築費用等への助成やスカイタウンつつじが丘分譲地における3世代購入割引などを実施し、出生率の向上や高齢者の健康増進などにつなげます。

### **(教育の充実)**

昨年策定した「和歌山市教育振興基本計画」に基づき、学校・家庭・地域が連携して、子どもたちの「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育むことで、ともに学び、ともに支えあい、未来の和歌山市を創造できる人を育てる教育を進めます。

義務教育9年間の教育目標と一貫したカリキュラムの下、小・中学校間の円滑な接続が図れる教育活動を実施するため、伏虎中学校区小中一貫校の建設を進めるとともに、他校区においても児童・生徒の実態や地域・保護者のニーズを踏まえながら、一貫校の検討を行います。また、児童増加に伴う教室不足解消のため、山口小学校

校舎を増築するとともに、岡崎小学校の老朽化したプールを更新するなど子どもたちの学びの場を整備します。

社会を生き抜く力を育成するため、特別支援教育支援員の派遣や学習支援員を配置するとともに、学識者を招へいた校内研修や指導助言による中学校教員の授業力・実践指導力の向上を図ります。また、18歳までの子どもや保護者、教職員を対象に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを学校に派遣するとともに、生徒指導補助員を配置し、いじめや不登校のない環境づくりを進めます。

充実した学習活動への取組として、休業土曜日を利用し、地域の方々の参画により、様々な活動や体験の機会を子どもたちに与えるとともに、学校と地域先達の協働・連携を行う小学校を拡充するなど、地域ぐるみの学習活動を推進します。また、和歌山大学と連携し、学生の学習支援員としての市立学校への派遣の充実や、児童・生徒の読書活動の推進に向けた研究指定校への学校司書の配置を行うとともに、国際理解教育の推進のため、小学校5・6年生と中学校の全クラスへALT（外国語指導助手）を引き続き派遣するなど、多様な学習機会を提供し、子どもたちの健全な育成を支えます。

## ◆誰もが便利で安心して暮らし続けられるまち

当面の人口減少や少子高齢化に対応し、誰もが安心して暮らし続けられるまちの実現を目指し、高齢者・障害者福祉の充実や市民の健康づくり、防災対策に取り組むとともに、コンパクトで便利なまちづくりを進めます。

### (高齢者福祉・障害者福祉の推進)

高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らせるよう、医療・介護・予防・生活支援を包括的に提供できる体制の充実を図ります。情報共有への支援や研修等の実施などを通じ、医療と介護の連携を強化するとともに、生活支援コーディネーターを配置し、多様な事業主体による生活支援サービス体制の構築を図ります。また、地域における自主的な取組を促進するため、地域の介護予防自主活動グループの立ち上げなど地域リハビリテーション活動を支援するとともに、地域福祉を支える担い手を養成します。

全ての市民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に取り組みます。障害に対する正しい認識についての市民への啓発活動や手話

通訳者等の養成・派遣などによるコミュニケーション支援を行うとともに、障害者差別解消調整委員会を設置し、相談や紛争防止に取り組めます。また、障害者の自立と社会参加をより一層進めるため、働く場の確保・開拓への取組を強化するとともに、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、グループホームなどの障害者施設の整備を推進します。

#### **(健康都市わかやまの実現)**

市民の健康寿命の延伸を目指し、健康増進や疾病予防に取り組めます。

国民健康保険加入者に限定していた運動教室を全ての方に対象を拡大するとともに、引き続き健康ウォーク、シニアエクササイズの普及に取り組む、市民の自主的な健康づくりを促進します。また、地域の高齢者が多世代と交流しながら健康でアクティブな生活が送れるよう、和歌山市版「生涯活躍のまち」の検討を進めます。

本市の死亡原因の第一位であるがん対策を強化するため、胃がん予防対策の一環として、新たに成人ピロリ菌検査を実施するとともに、自殺予防対策を強化するため、講演会の開催や啓発による睡眠

キャンペーンを実施し、うつ病の早期発見に取り組みます。

### **(安全・安心な暮らしの確保)**

日常生活における様々な不安の解消や災害に対する安心の確保に取り組みます。

地域見守り協力員の配置を行うことで一人暮らしの高齢者などの見守りを強化するとともに、地域安全推進委員会の各支部が行うパトロール犬を活用した防犯活動を支援します。また、防犯上必要な箇所へ防犯カメラを設置するとともに、自治会が設置する場合の費用に対しても支援します。

大規模災害が発生しても、人命の保護を最大限に図るとともに、市民生活や経済活動への影響が最小限に抑えられるよう、避難体制の充実や防災基盤の整備などを進めます。

地域住民とともに作成した「津波地区避難計画」に基づき、避難訓練の実施や避難等に係る課題の抽出を進めるとともに、土砂災害ハザードマップや内水ハザードマップの周知を図り、災害に強い人と地域づくりに取り組みます。速やかな避難につなげるため、和歌山市版「稲むらの火」として、暗闇でも避難所が分かるよう屋上に

誘導灯を整備するとともに、避難所に震度感知式鍵ボックスの設置を行います。また、避難所での生活環境を改善するため、生活用水を確保するための打ち込み井戸を設置するとともに、食料や飲料水の備蓄を拡充します。

豪雨による浸水被害を最小限に食い止めるため、内原のゲートポンプの設置に着手するとともに、公共下水道の普及により不要となる浄化槽の雨水の貯留槽への転換に対して助成を行います。また、前代川、永山川の河川改修や紀の川流域の農地への浸水被害を防ぐための国営総合農地防災事業を促進します。

### (コンパクト化とネットワーク)

当面の人口減少に配慮したまちづくりを効率的に進めるため、空き家や既存公共施設といった財産を有効活用するとともに、交通ネットワークの充実を図ることで、コンパクトで便利なまちを目指します。

増加する空き家等の利活用策も含めた対策を総合的かつ計画的に実施するため、空き家等対策計画の策定に向けた「(仮称)空き家等対策協議会」を設置するとともに、危険な空き家への迅速な対応や

利活用が可能な物件の把握のための実態調査・データベース化や除却費に対する助成を行います。

公共施設の有効活用を図るため、現在休止中の大新地下駐車場のPPPによる活用やお城の動物園、秋葉山公園、四季の郷公園などのリニューアルに向けた取組を進めるとともに、斎場の長寿命化を図るための施設整備基本構想や和歌川終末処理場の改築・更新にあたり、中央終末処理場とのネットワーク化や移転を含めた抜本的な更新計画を策定します。

各地域を結ぶ幹線道路ネットワークの強化を図るため、南港山東線は平成30年度、市駅和佐線は平成34年度の完成を目指し、引き続き整備を進めるとともに、有本中島線の事業化に向けた概略設計を行います。また、交通結節点機能の強化を図るため、紀伊小倉駅へのアクセス道路等を整備するとともに、各地域の拠点となる駅の機能向上に向けた検討を進めます。公共交通については、貴志川線の存続への支援や地域バスの導入検討を通じ、円滑な移動の確保に取り組みます。



## ◆その他の主要事業

このほか、環境に配慮した循環型社会形成への取組として、直接搬入されるごみのうち、リサイクル可能な資源物を分別するためのストックヤードの実施設計を行います。また、これまで混合収集していた紙・布の別回収を平成28年度中に実施するとともに、分別収集しているプラスチック製容器包装については、ごみ処理費用の削減や焼却による発電量の増加に向け熱回収に移行します。

地籍調査については、土地にかかるトラブルの未然防止、災害復旧の迅速化、土地の有効活用の促進など様々なメリットがあることから、組織体制を強化し、スピードを更に加速させてまいります。

投票率の向上を図るため、選挙時の防災行政無線などを活用した呼びかけや若年層に対する啓発の強化に取り組むとともに、夏の参議院議員通常選挙から期日前投票所として「さんさんセンター紀の川」、「地場産業振興センター」、「河南コミュニティセンター」の3か所を増設し、投票しやすい環境づくりを進めます。

以上が、平成27年度最終補正に計上しました国補正分の事業を含めた平成28年度の主要事業です。

この予算の規模は、

一般会計	1,493億3,632万9千円
特別会計	1,328億1,047万7千円
公営企業会計	172億6,056万円
総計	2,994億736万6千円

で、前年度の予算に対する増減率は、一般会計で2.4%の減、特別会計で0.1%の増、公営企業会計は1.0%の減となり、全体では1.2%の減となっています。

新年度一般会計予算は、過去最大であった前年度と比較すると約36億円の減となりましたが、前年度の借換えによる元金償還金と国体経費を除いて13か月予算で比較しますと、約9億円の増となります。

歳出の主な増減要因といたしましては、小中一貫校の施設整備費、こども医療費を含む子育て支援、障害者総合支援などの社会保障費の増と、国体開催にかかる経費、青岸清掃センターの整備費の減です。

一方、一般会計の歳入は、市税で、主に税制改正により税率が引き下げられた法人市民税は減収となっています。また、配分割合変

更の影響により地方消費税交付金の増額を見込んでいます。地方交付税と臨時財政対策債を合わせた実質的な交付税は、基準財政収入額の増等により減額となりますが、歳入一般財源の総額としては増加を見込んでいます。国補正や国庫補助事業を活用して財源確保に努めたことにより、平成27年度当初予算編成時より財源不足額は縮小しました。

今後とも、事務事業の見直しや事務の効率化を進めるとともに、行財政改革を継続的に推進することによって、効率的で効果的な市政運営を目指すことは、市民にとって不可欠な行政サービスを安定的に提供することにつながっていくものと考えています。

この新年度予算は、「和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関する事業を本格的に始動させる予算であると考え、私を先頭に職員一丸となって編成したものです。

この予算に盛り込んだ事業を着実に実行し、「きらり輝く元気和歌山市」の実現を図っていきたいと考えていますので、市民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げますとともに、議員の皆様におかれましては、慎重にご審議の上、何卒ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

